



# 布施だより

## 《 書いて伝える ～篠ノ井有線放送から～ 》

篠ノ井有線放送「僕・私の作文」の番組が毎週木曜日に流れています。年が明けた 1 月の最終週からは篠西中の巡りとなり、先日有線放送の小関さんが来校され、学年代表の 3 人の皆さんの作文を録音していただきました。既に先月末より放送されています。発表原稿の抜粋を掲載します。書くことで、今の自分の考えを深め、より豊かな感受性を身につけようとしてくれています。

### 〈文字の会話と声での会話 ～ 1 年 橋爪駿介さん ～〉

その日は、母の帰りが仕事で遅く、僕が家に帰ったときには姉が家にいました。僕はいつものように「ただいま」と呼びかけました。しかし、姉はスマホに向いたまま何も言いませんでした。おそらく友達と「LINE」で文字のトークをしていたのだと思います。ほんの少しの沈黙の後、思わずため息が出ました。ささいなことなのに何だか悲しくなりました。

最近「LINE」に関するトラブルのニュースを耳にします。なぜトラブルに発展してしまうのでしょうか。僕は主に、相手の顔が見えないことが原因ではないかと思っています。表情や仕草が見えないことで、気持ちが伝わりづらく、互いの気持ちにすれ違いが生じ、トラブルに発展することがあるからです。

ですが、これらのトラブルはちょっとした心がけで防げると 생각합니다。それは実際の声の会話をする事です。確かに「LINE」は便利で楽しいものですが、それだけに頼る事はしてほしくありません。気持ちがすれ違わないように、現実の声の会話を大切にしたいと思っています。

### 〈身の引き締まる思いです。 ～ 2 年 高野連さん ～〉

創立 50 周年という記念すべき年を迎えます。その記念すべき年に生徒会を支え、引っ張っていく立場の生徒会長となり、身の引き締まる思いです。その生徒会活動の中でも篠ノ井西中学校文化祭「銀河祭」は、50 周年の大切な行事のひとつになります。責任は重大ですが、今までと同じくらい、深くずっと全校の皆さんの心に思い出として残る「銀河祭」になるように頑張りたいです。

自分自身のことで考えると、この 4 月からは 3 年生になります。自分の将来のことを具体的に考え始めて、夢にたどり着けるよう進学を考えていかなければなりません。3 年生になるこの 3 ヶ月前から、勉強時間を少しずつ増やしていきたいです。そして部活動を引退するまでは、部活動に集中して、引退後は受験勉強に集中できるように、切り替えをしていきたいです。

1 年間、頑張っていきたいです。

### 〈 中学校を卒業します。 ～ 3 年 東方涼太郎さん ～〉

3 学期を迎えて、私たちはもうすぐ中学校を卒業します。小学校の時は、あんなに時間が経つのが遅く感じられたのに、この 3 年間は何て速く過ぎていったのだろう。ひとつひとつが、今懐かしく思い出されます。

でも私たちにはしなければならぬ大切な仕事があります。それは進路決定です。目の前に立ちはだかる高い壁を乗り越えなければなりません。時にはこの挑戦から逃げ出したいという気持ちが頭をよぎることがあります。でも逃げたくはありません。逃げられない試練であるならば勇気を持って乗り越えるしかありません。

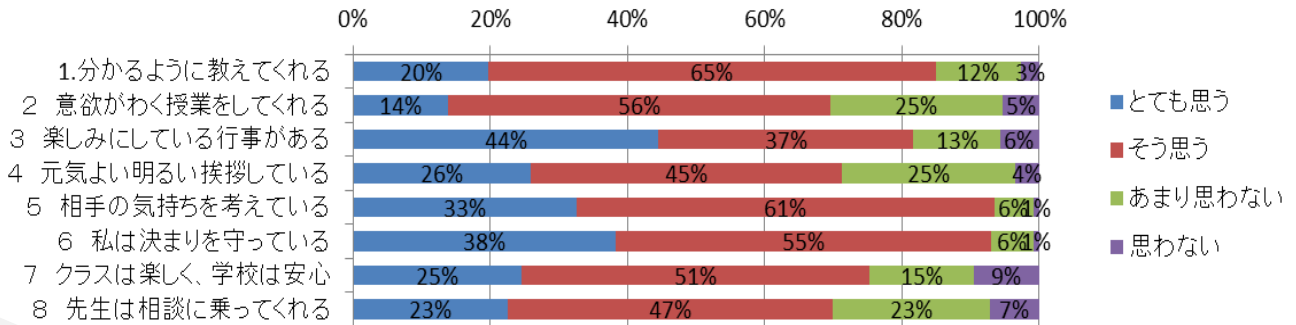
まだまだ寒い日が続きますが、春はもうすぐそこまで来ています。今年、中学校を卒業する皆さん、残り少ない中学校生活を大切に過ごしましょう。私たちの前にあるのは、本当は「壁」ではなく、私たちを希望に導いてくれる「窓」なのかもしれません。窓の向こうに見えるあの坂道を一気に駆け上がったら、きっと未来が見えるはずですよ。



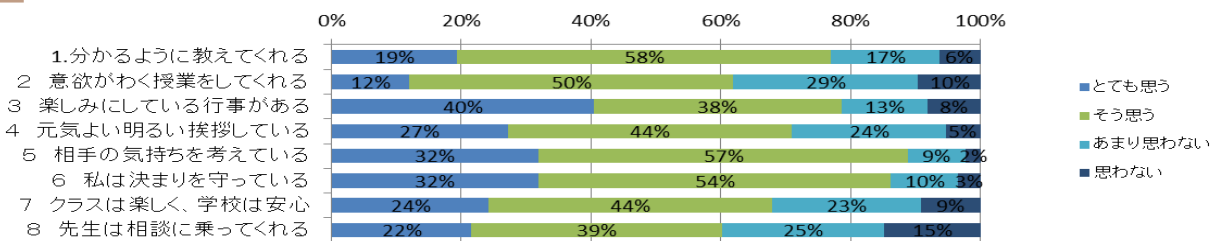
## 《 平成26年度 生徒・保護者アンケートより 》

昨年末の「保護者アンケート」記入にご協力いただきありがとうございました。同じ時期に行った「生徒アンケート」の結果と考察を、昨年度平成25年度結果と対比させていただきます。

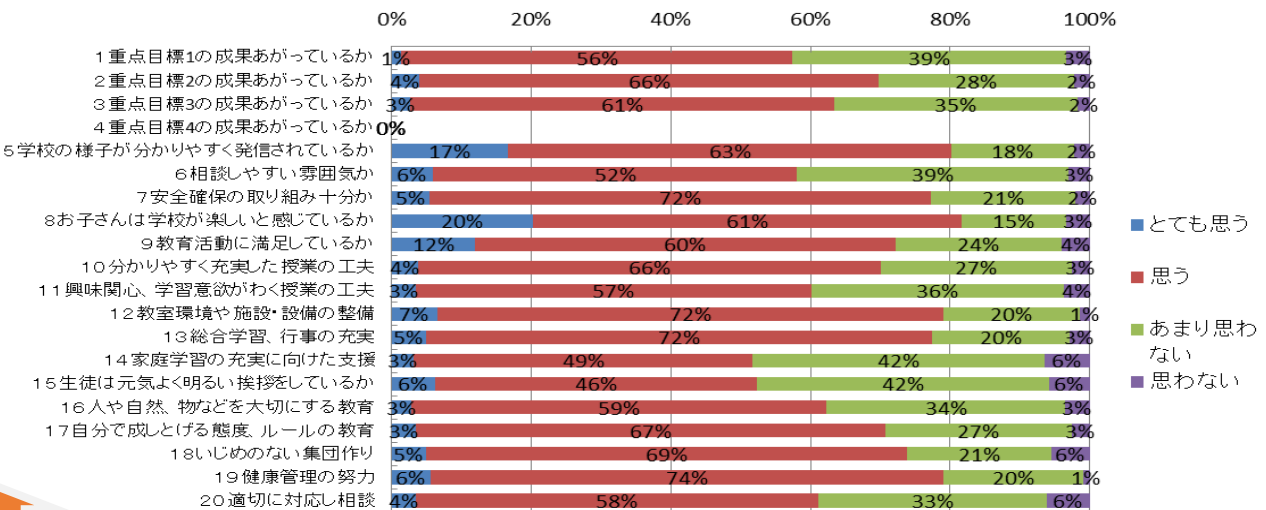
### 平成26年度 生徒アンケート結果



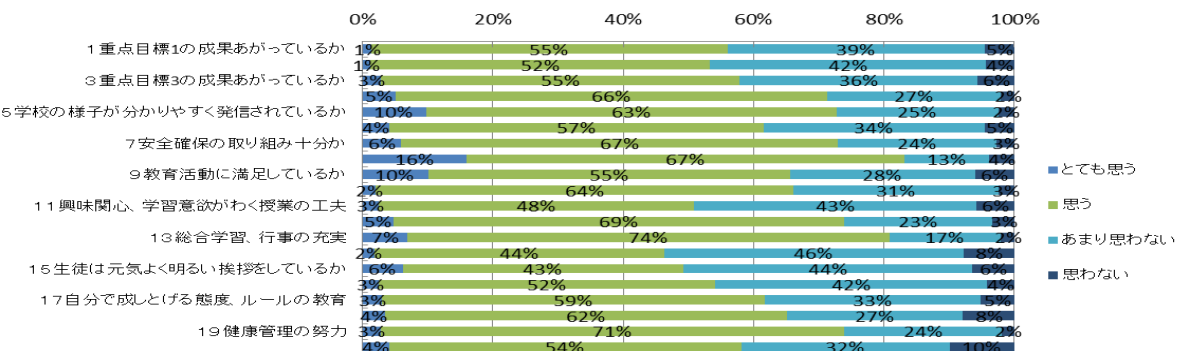
### 平成25年度 生徒アンケート結果



### 平成26年度 保護者アンケート結果



### 平成25年度 保護者アンケート結果



〈考察「生徒アンケート」より〉 \*数字は肯定的評価の「Aとても思う」「B思う」を合算した%です。

○「4 明るい挨拶をしている」が前年度と同じ71%で、それ以外の7項目が全て前年度を上回りました。特に「8 先生は相談に乗ってくれる」が〈平成25年度61%→平成26年度70% 以下同じ〉と9%上回りました。これは、先生方がひとりひとりの生徒に寄り添って、その生徒の望む方向に耳を傾け、支援をしていることを、生徒自身が実感していることを示すものであり、生徒と教職員の信頼関係が定着しつつあることが推察されます。さらに、様々な日々の活動を通じて、生徒の声に誠実に耳を傾けていこうと考えています。

次に肯定的評価が高かった項目は「1 分かるように教えてくれる」〈77%→85%〉「2 意欲がわく授業をしてくれる」〈62→70%〉「7 クラスは楽しく学校は安心できる場所である」〈68%→76%〉の3項目で、それぞれ前年度を8%上回りました。項目1と2の「授業・学習」に関して、肯定的評価が高いのは「学校グランドデザインの指導の重点」に据えた「聴く・チャイムスタート（凡事徹底）」を基盤にした指導が功を奏した結果です。節度ある授業スタートと落ち着きのある追究姿勢と安定した授業での取り組みが項目7の「安心」と密接に関わってもきています。



○一方で、「4 明るい挨拶をしている」が前年度と同様の70%です。一概には言えませんが、やや低めの数字は、より「挨拶」を交わし合い、人と人とのつながりに心寄せて生活していきたいという生徒の強い願いがあるようです。これは「保護者アンケート」の記述に学校外での挨拶がやや低い感想を受けていることとも関連し、保護者・地域の皆様も社会生活の中で「挨拶」の大切さを若い人たちと共に共有し、交わし合いたいということの表れです。「指導の重点」に据えた「相手意識のある挨拶」に教職員、生徒が一体となって保護者・地域の皆様と一緒に取り組んでいこうと考えております。

〈考察「保護者アンケート」より〉

○「8 お子さんは学校生活が楽しいと感じていますか」が前年度比-2%ですが、81%と高い評価がなされています。これは「7 安全確保のための取り組みを十分行っていると思いますか」が前年度比+6%、「9 本校の教育活動に満足していますか」が同様+7%と、安全安心な学校生が整備されていることに関連しているようです。人権感覚育成にさらに力を注ぎ、ひとりひとりの生徒にとって居心地のいい学習環境を整えていこうと考えます。

「11 授業参観やお子さんの様子から、本校は子どもの興味関心や学習意欲が高まる授業の工夫をしていると思いますか」が〈51%→60%〉と9%上回りました。これは「学校グランドデザイン 柱1 基礎・基本の学力の確かな定着～「見える学力」の向上～」に据えた「各教科会の学力向上プランの立案と実践」と「日々の授業改善」が、授業参観の際や生徒の追究姿勢からプラスに感じ取っていただいていることを示しています。6割の肯定的評価をより高めていこうと考えています。

\*最後に評価C「あまり思わない」D「そう思わない」を合計した否定的評価で考察します。

「14 家庭学習の充実に向けた支援を行っていると思いますか」が52%（前年度比+3%）と家庭学習取り組みへの期待度が読み取れます。今年度「学習オリエンテーション」で家庭学習の取り組み方を説明したり、「学習通信」を発行したりして、仲間の家庭学習の様子に学び合う機会

をとってきました。来年度は教科会の中で共通理解をさらに図り、学年会とも連携して家庭学習への取り組みの充実を図ってまいります。

### 〈全体としての考察〉

生徒アンケートからは、「私のクラスは楽しく、学校は安心できる場所」の項目において、肯定的評価が75%（前年度比+7%）であり、生徒も教職員も「誰にとっても居心地の良い」クラス作りに取り組んできたことが分かります。しかし、まだ25%の生徒が否定的評価をしていることに心寄せ、安心で安全な学校作りに向けて生徒と職員が一緒になって取り組んでいきます。

保護者アンケートからは、「お子さんは、学校生活が楽しいと感じているか」が82%や「情報提供が分かりやすく発信されているか」が80%と肯定的評価が出ています。生徒の活躍の良さを小まめに発信し、より保護者・地域の皆様と一体となって連携しながら学校作りがなされるよう取り組みを図ってまいります。一方で「相談事への適切な対応」の項目については、十分ではないといった受け止め方（39%）があり、さらに一層努力して取り組んでいきたいと考えます。

平成26年度学校グランドデザインをベースに、1年間を振り返り、成果と課題を確認できた評価アンケートでした。課題解決に向けて、より情報を発信・共有しつつ、生徒にとって学びがいがある成長が実感できる学校運営に取り組んで参ります。

ご協力、本当にありがとうございました。  
今後ともよろしくお願いいたします。



## 《 春待つ息吹き 》

〈北信南部地区中学選抜 インドアソフトテニス大会 男子の部〉 1月31日 於：千曲市  
第2位 鵜澤啓太 さん 宮之内健斗さん

雑誌「信濃教育1月号」に掲載された北信地方の先生の随筆です。よろしかったらお読みください。

夏休みのある日、東京から戻るときに乗った高速バスでの話です。空席が多く広々としていて静かでした。どのくらい時間が経ったでしょうか。けたたましい警笛と急ブレーキの金属音が響きました。バスはちょうどサービスエリアに入ったところでしたが、一台の乗用車がバスの前を急に横切ったようでした。同時に子どもの甲高い泣き声が起きました。子どもは頭を窓枠にぶつけたようでした。しばらくして泣き止んだ子どもの頭をなでながら、母親は子どもにこう語りかけたのです。「とっても痛かったね。あなたも痛かっただろうけど、このバスの窓さんもきっと痛かったと思うよ。母さんと一緒に、窓さんにも痛いのが飛んでいくおまじないをかけてあげようね。」こっくりとうなずいた子どもは母親と一緒に窓をなでながらおまじないをかけました。



とにかく人はバスの前を急に横切るといふメチャクチャな運転をしたドライバーやバスの運転手を激しく責めたり、全く関係のない窓を打ち付け、怒りをぶつけることで子どもや自分自身の腹立ちを静め、その場を何とか納めようとする人が多いものですが、多分母親と子どもの顔はほほえみであふれていたことだろうと思います。

私は、この話を来入児説明会等の機会に保護者の皆さんにお話しています。それは、この話が単に「巜」云々ということだけではなく、公共の場でのあるべき振る舞い方を端的に示してくれるものだと思うからです。そして咄嗟にこのように振る舞えるということは、普段の生活の場でも当たり前に行っているということが考えられるからです。私たちは何かのトラブルや問題の原因を常に自分以外に求めたり、苦しみを与えたとされる相手を探し出したりして、その相手を責めることによって自分を納得させようとする習慣を知らず知らずのうちに身につけてきたことはないでしょうか。さらに「子は親の鏡」子どもの振る舞いを見れば、その親がどんな親であるかを知ることができる。」という諺がありますが、このお話は知らず知らずのうちに、その習慣を子どもたちに植え付けていることはないかと深く考えさせます。

……立春を迎えて、春はもうすぐです。